

新しい真珠養殖技術実証化事業

新・白色系ピース貝生産技術開発研究

田中真二・土橋靖史・渥美貴史

目的

経済的価値の高い白色系真珠をつくる貝殻真珠層白色系アコヤガイの新しい系統（新・白色系ピース貝）の生産技術を確立する。

方法

1. 新・白色系ピース貝系統の保存

尾鷲市九鬼と福井県から導入した各天然貝由来の系統ならびに三重県栽培漁業センター母貝系統について、系統保存用に同ロット内の無選抜の親貝（雌 23～30 個体、雄 25～30 個体）を用いて交配した。

2. 新・白色系ピース貝系統を用いた真珠生産試験

4 名の養殖業者に依頼し、以下のとおり真珠生産試験を行った。ピース貝には、平成 25 年度に種苗生産した新規ピース貝 4 系統（母貝♀×九鬼♂、母貝♀×福井♂、福井♀×母貝♂、九鬼♀×母貝♂）と養殖業者手持ちのピース貝（民間ピース貝）の 2 年貝の計 5 系統を用いた。母貝には、三重県栽培漁業センター産母貝（スーパーアコヤ貝）と業者手持ちの民間交雑母貝の 2 系統を用いた。すなわち、各業者ともピース貝 5 系統×母貝 2 系統＝10 試験区とした。4 月下旬～6 月下旬に、各区とも 100 個の母貝に 1.9 分の核を 1 個ずつ挿核した。挿核に用いたピース貝の殻（1 試験区につき 2～4 個体）を回収し、右殻の殻体真珠層黄色度（YI 値）を測定した。試験貝を 12 月に浜揚げし、真珠の黄色度、巻き、干渉度および光

沢度を測定した。

結果および考察

1. 新・白色系ピース貝系統の保存

生産した種苗はいずれの系統も順調に生育しており、各系統につき約 1,000 個体を神前浦漁場で育成中である。

2. 新・白色系ピース貝系統を用いた真珠生産試験

ピース貝右殻の殻体真珠層黄色度の平均値を業者別、系統別に図 1 に示す。黄色度の平均値は新・白色系ピース貝が 11.3～25.8（平均 15.9）、民間ピース貝が 12.6～26.5（平均 19.6）であり、民間ピース貝に白貝を用いた業者アを除き、概ね同等以下であった。

生産された真珠の黄色度、巻き、干渉度および光沢度の平均値を業者別、系統別に図 2 に示す。新・白色系ピース貝の真珠の黄色度は 61.9～75.9（平均 69.7）であり、民間ピース貝の真珠（60.4～76.4（平均 68.1））と比べて遜色なかった。巻き、干渉度および光沢度も、新・白色系ピース貝の真珠は概ね民間貝と同等であった。

これらの結果から、新・白色系ピース貝を用いることにより、民間ピース貝と遜色ない品質の白色系真珠を生産できることが確認された。

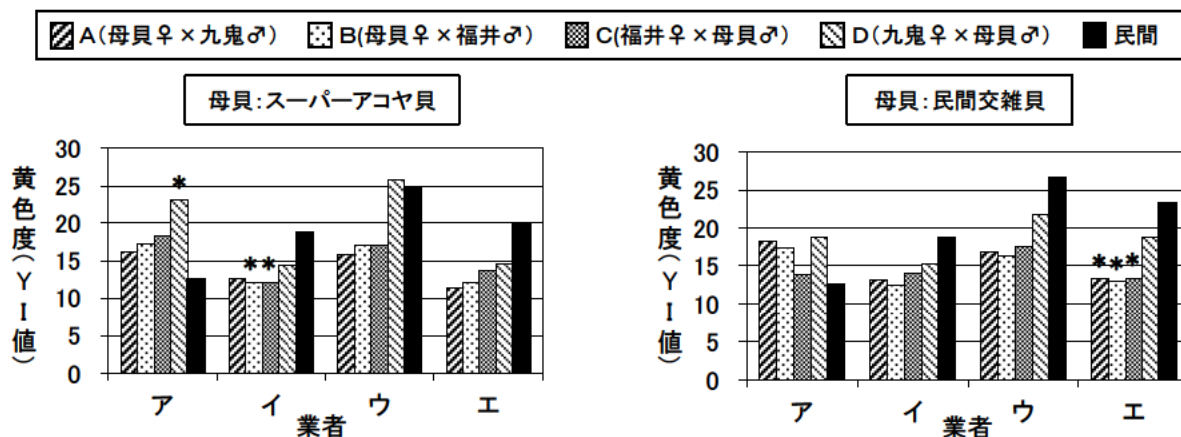


図 1. 真珠生産試験に用いたピース貝右殻の殻体真珠層黄色度 (*同一業者内で民間貝との間に有意差あり ($p < 0.05$))

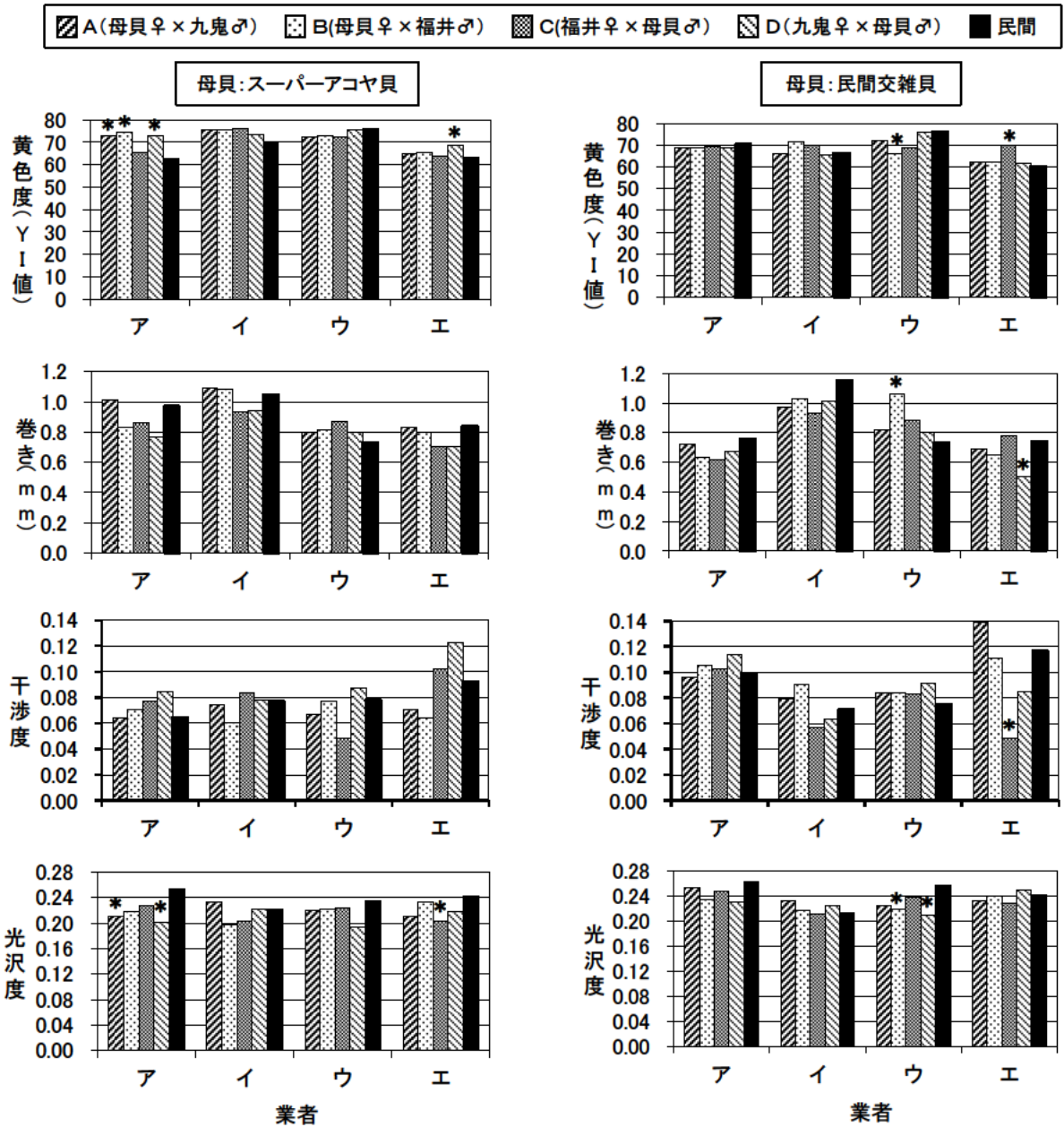


図2. 新・白色系ピース貝系統を用いて生産された真珠の測定結果 (*同一業者内で民間貝との間に有意差あり ($p < 0.05$))